

令和2年度第4回乙訓地区小中学校使用教科用図書採択協議会 概要

日時：令和2年6月26日（金）

午後2時から同4時30分まで

場所：長岡京市立図書館 大会議室

1 開会・挨拶

山本会長（長岡京市教育委員会教育長）

2 出席者

(1) 協議会委員

○ 山本和紀	会長	○ 永野憲男	副会長	○ 中條郁	副会長
○ 白幡節子	委員	○ 松本克彦	委員	○ 流石智子	委員
○ 福澤秀夫	委員	○ 京樂真帆子	委員	○ 大下和徹	委員
○ 盛永俊弘	委員	○ 榎本和彦	委員	○ 並川康子	委員
○ 岡弘子	委員	○ 尾瀬さち子	委員	○ 竹林広司	委員

以上、15名

欠席者 中野緑 委員、馬場信行 委員

(2) 研究員

代表研究員及び市町（総括）指導主事 19名

(3) 各市町教育委員会等事務局

長岡京市 4名 大柳次長兼学校教育課長、渡辺主幹兼学校教育係長、神谷主査、塩貝主事

向日市 2名 松石主席課長兼学校教育課長、藤田学校教育係長

大山崎町 2名 上田学校教育課長、堀井参与

オブザーバー 京都府乙訓教育局 林企画教育課長

3 議題 調査研究に係る中間報告について

代表研究員から、調査研究の中間報告を行った。

（以下、質疑応答及び意見。質疑を「○」、応答を「→」、意見を「◎」で表す。）

① 国語

【国語】

○ 光村図書出版についてフォーマットやレイアウトが見やすく、学びやすいと感じたが、各発行者の特徴はどうか。

→ 光村図書出版はバランスよく構成されている印象である。手引きも充実している。また、東京書籍、教育出版社は構成がかっちりとしており、指導者にとって扱いやすいと考えられる。生徒には少しとっつきにくさがあるかもしれない。光村図書出版、三省堂は生徒にとって読みやすい印象である。

○ 小学校用教科用図書に比べて読み物が豊富と感じたが、評論的な内容が多い印象。

→ 多読で学んだ教材の発展的なものが多い。授業から発展させるもので、評論だけでなく、物語も充実させた内容である。

【書写】

○ 書写の教科書について、学習指導上、国語と同じ出版社である方が良いか。

→ 別々の出版社の教科書であっても可。ただし、国語の教科書の本文中に出てきた「詩」を書写の硬筆教材として取り上げている出版社もある。

② 社会

【地理】

○ 地図と地理の教科書の出版社が同一でなかった場合の使い勝手はどうか。

→ 例えば東京書籍の地理・歴史・地図は各教科について意図してリンクさせているが、その必要がどれほどあるかについては、指導者が地図を使うタイミングを配慮すればクリアする問題である。地図としての見やすさ、資料の見やすさ、統計資料の豊富さがより重要と考える。

【公民】

○ 教育出版社には「問いかけ」があり、課題があるので分かりやすいのではないか。分かりにくい語句について示しているのも特徴的だった。学ぶ姿勢を受け止められると思った。

→ 各出版社で手法が異なるため、巻末で整理するという手法もあり、脚注や資料についても使い方次第である。生徒の視点で言えば、読んでいる頁に説明があることは学びやすさにつながると考えられる。

○ 自由社には四百字程度にまとめるという課題があったが、中学生の学習として四百字を設定する意義はどうか。

→ 他の出版社にも時数制限を設けずに同じような問いはある。四百字ではやや少ない印象だが、もう少し多めの分量でまとめることが大切。

○ 四百字にまとめるのは返って難しいものと思うがどうか。

→ 設問を通して制限時数内に自分の意見をまとめるということが大切である。

【地図】

- 帝国書院のサイズが大きくなったが、机の上での使い易さはどうか。
- サイズが大きいことは、机上で場所を取ったり、持ち運びにマイナス面もあるが、広く地域を眺められることが利点。授業活用の面において魅力的である。

③ 数学

- 因数分解を例に比べてみたところ、出版社ごとの特徴はどうか。
- 指導内容面についての大きな差はなかったが、教科書の見やすさも大切と考える。

- 演習問題の分量について、各出版社の特徴はあったか。
- 演習問題の構成は同じであるが、單元ごとにあるものや巻末にまとめているものがある。問題数を数えてはいないが、必要があれば確認したい。

- QRコードで解説が表示されている出版社があるとの報告であったが、どこの出版社であったか。
- 確認し、改めて回答したい。

- 数研出版の別冊の重さは100gあるが、教える側として、別冊として分かれていたほうが教えやすいのか。別冊の値打ちはどうか。
- 教科書会社として別冊のほうが扱いやすいと考えているのだと思う。ただし、別冊を紛失した生徒もいたので、そういった懸念も踏まえて一冊にまとめている教科書もあると考えられる。
どちらがいいかは一概に言えない。毎回持ってこなくていいという面もあるが、別冊だけ忘れてもするし、重さという面もある。

- ◎ 演習問題の量や質はとても大事。しっかり調べてほしい。

④ 理科

- 動画コンテンツについてはどれくらいフォローできているか。奥の深さ、各社で違いはあるか。
- 各社コンテンツは出版社によって違いがある。観察や実験をサポートするための動画や学習の補助教材として使えるようなものがある。

- ◎ 家庭での学習がますます重要になると思うのでしっかり確認してほしい。

- 実験や観察について各発行者の差異はあるか。
- 各発行者とも、写真や図を用い、観察・実験の手順について簡潔に示しているが、QRコードがついているものがあるという点で差異がある。

○ 東京書籍のサイズが大きめだったが使い勝手はどうか。
→ 東京書籍はA4サイズになっており、観察や実験の際、机に広げたときに課題があるかもしれない。

○ 全体として問題意識をもって問いかけるものがあるが、学校図書は問いかけがうまくできているか気になったがどうか。
→ 学校図書については振り返りについては表現方法が異なるものだが、内容的に特に他と比べて落ち込んでいるという印象はない。

⑤ 音楽

◎ 各出版社の特徴が分かりやすくまとまって報告されている。引き続き調査研究を進めてもらいたい。

⑥ 美術

○ 2・3年上と2・3年下となっている教科書があるが、2年に渡って2冊あるという意図はどうか。
→ 分かりかねる。三分冊になっている日本文教出版はページ数が多い分、写真や資料が多かった。生徒が学校へ持参するのはどれか1冊になると思うが、三分冊の方が一番軽くなると思う。

◎ 合冊とせず、2年で1冊、3年で1冊にした方が持ち運びしやすい。

⑦ 保健体育

◎ 誤字についての指摘（「シミュレーション」）

○ 今回新たにAEDについて記載されているが、発行者毎の違いはどうか。
→ 動画でAEDの実習が見られるものがあったり、大日本図書は折り込みで大きく扱っている。

◎ 次回はAEDの記載についてより詳しい説明をお願いしたい。

○ 発問の方法について各発行者で特徴的なものはあるか。
→ 東京書籍については小さな学習のまとめり毎の発問形式となっており、発問の項目が多い。

○ 資料について、見開きで左右にページが分かれている形式のものと本文の流れに沿って記載された形式のものとがあったがどちらが使いやすいか？
→ 研究員で議論したが、本文の流れの中ですぐそばに資料があるという形式の方がむしろ生徒は使いやすいかもしれないという見解となった。

⑧ 技術・家庭

【技術】

- ◎ 報告書の文末語尾について整理願う。また、各発行者同一の記載内容の項目について記載欄を整理願う。

【家庭】

- ◎ 報告書の各項目の文頭に「・」を加え、読みやすく改善願う。

⑨ 英語

- ◎ 資料の分量が多い一方で、文法説明の内容が不足していると感じる。
- ◎ 東京書籍（1年生）の25ページに男の子のイラストが左利きに描かれている。隣の外国人は右利きで、啓発の意図があるのか分からないが必要性について疑問。
- ◎ アニメや漫画が出てくるが、昔のアニメは今の子供たちには分からないのでは。漫画を英語で語らせる場面について一部違和感があった。
- ◎ 会話を重視しているから、文法的な積み上げが薄く感じる。1年生と3年生の差がほとんどない。特に受動態の説明では明らかに違う説明をしているものがある。
- 分量の多い資料について、学習においてどう扱ってゆくのか。
→ 資料の分量が多いのは、各発行者が教員の意見を反映した結果だと思う。あとは教員がどう活用していくかが腕の見せどころと考える。
- 文法説明が不十分という印象を受けたが、中学校で文法を教えるということについてどう考えるか。
→ 研究員においても特に受動態に注目して調査を行っているところである。会話重視の傾向にあるため、文法だけを切り離すと細かい所を載せることができなかつたと考えられる。高校への接続も意識して文法を教えていく必要がある。

⑩ 道徳

- ◎ 「いじめ」は実情として中学1・2年で起こりやすく3年である程度落ち着くという傾向が見られることから、1・2年生でいじめを重点的な学習に置く日本文教出版は理に適っていると考える。
また、2・3年でその他の国際理解などの学習に重点を置く点で日本文教出版はバランス良く取り入れている。教育出版・光村図書も同様に適っておりバランスが良い印象である。